



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

関西支部の活動紹介

はじめに

コロイドおよび界面化学部会関西支部の主な支部行事は、「関西界面科学セミナー」と「関西コロイド・界面実践講座」の2つです。コロイド・界面化学の基礎を学ぶ場としては、部会が主催する「界面コロイドラーニング」が大阪で開催されています。

関西界面科学セミナー

コロイド・界面化学分野を基礎から学ぶ場として「関西界面科学セミナー」は開催されています。今年は、若手・学生による質疑・討論を重視した口頭発表の機会として、第38回関西界面科学セミナー：若手・学生研究発表・討論会（1月9日（土）オンライン開催）を開催しました。

参加登録者数は87件であり、遠隔地からの参加可能なオンラインの特性を活かして、九州から北海道まで全国からご参加いただきました。そのうち、約3割が企業からのご参加でした。プログラムは、2件の特別講演と18件の若手・学生口頭発表でした。特別講演として、河合武司先生（東京理科大）「長鎖アミドアミン系界面活性剤の発色・ゲル化・ソフトテンプレート機能」と山本雅博先生（甲南大学）「コロイド化学における基本相互作用：van der Waals 力と電気二重層の現代的な解釈」にご講演いただきました。

若手・学生口頭発表は、15分（発表9分＋質疑応答5分＋交代1分）、あるいは30分（発表20分＋質疑応答9分＋交代1分）で実施しました。プログラムは1

時間ごとを目安に15分の休憩を入れて時間の余裕をもたせて、口頭発表の質疑応答をしっかりとやること（質疑応答の議論が続く場合は、講演時間を延長しても質疑応答を続けるなど）を念頭にし、熱心な質疑応答が続いていました。

今回の若手・学生口頭発表では、分子集合体、組織化膜、微粒子とその分散系、固体表面・界面の科学など、コロイドおよび界面化学に関わる幅広い分野からの発表がありました。このような会を開催できるのは、バックグラウンドの異なる様々なタイプの研究者・技術者が集う「コロイドおよび界面化学部会」の良さだと思います。

11月19日（金）には、第39回関西界面科学セミナー：濡れの基礎と評価法、およびその活用技術～濡れの理解に向けて（オンライン）を開催することになりました。液体と固体表面の濡れは身近な現象であり、塗料・顔料などの分散、塗装・塗布・乾燥などの製造工程、洗浄等を含む半導体製造プロセス、および医薬材料など、様々な分野に密接に関係しています。濡れは目視できて直感的にイメージしやすいですが、一方で濡れの本質的な理解は、濡れをモノづくりに活かすためには不可欠なものです。本セミナーでは、この分野で経験豊富な気鋭の方々に濡れを扱うために必要な基礎知識、評価・制御法、およびその活用技術について、基礎から応用に至るまでをわかりやすく解説していただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしております（詳細は、部会HPをご参照下さい）。

<https://colloid.csj.jp/202107/2021kansai/>

関西コロイド・界面実践講座

主に企業部会員の意見を元に産業界におけるコロイド・界面化学を活かした製品や関連技術に関する話題を提供する場として「関西コロイド・界面実践講座」を、例年、秋～冬期に実施しています。本講座は1996年に開始されました。最近では、「乳化系および分散系の基礎と評価法～すぐに役立つ即戦講座～」、「ソフト系の分散・凝集の評価法とその制御」、「基礎から学ぶ分散・凝集とその応用～学理と実践・測定～」など、分散・凝集に関わるテーマを中心に取り上げてきました。コロイド・界面の基礎や先端研究から、どのように技術創出につながっていくかについて、実例を挙げながらご講演いただいています。本実践講座は、毎年、参加者が多く人気の講座となっております。

おわりに

関西支部は、近畿およびその周辺地域の方が支部委員として活動しています。大学・公的機関だけでなく多くの企業の研究・技術者が参加しており産学官が協力して支部運営されているのが特徴です。

コロイド・界面化学の「基礎から応用まで」を広く、深く学ぶ機会、そして産学官の研究・技術者、そして学生が交流・情報交換できる場を提供できるよう企画を心がけて運営しています。今後とも関西支部の活動にご支援をよろしくお願い申し上げます。

〔2021年度関西支部長 川崎英也
（関西大学化学学生命工学部）〕

© 2021 The Chemical Society of Japan